

北海道における大規模土砂災害時の対応及び環境改善に係る検討会

(第2回) 議事要旨

1. 溪流保全工は、全国的に実施されている工法なのでチェックリストのみの記載だけではなくフローチャートとの両方に記載があった方が良い。
フローチャートの7の中に、堰堤関係施設の枠組みと分けて遊砂地と溪流保全工を記載すると良い。
2. フローチャート8で、透過型と不透過型の間で両方向の矢印になっているが、透過型から不透過型にする際の条件について、誤解を招かないように補足説明すると良い。
3. フローチャート4の「計画規模の検討」のみに技術検討委員会で決定する旨、記載されているが、フローチャートの7及び環境に関する項目5,6も含め、フローチャートの4~7の外枠を囲って技術検討会で検討する項目と記載した方が良い。
4. フローチャート7~10の流れにおいて、「9 砂防施設設計」の後に改良の有無の判断となっているが、「フローチャートの7 施設配置計画・施設形式の検討」で改良の有無を決めるため、8の下に施設改良の有無について記載すべき。
5. フローチャート7と8が二重に枠で囲まれているが、8以外は選択肢がないため枠を1つとすべき。
6. 今回の検討会で作成したフローチャートやチェックリストは流域の状態に応じて、施設改良出来るように構造を検討することになるが、現状の砂防計画においても、今後、移動可能土砂の状態や流域の土砂環境等の変化に応じた見直しや、施設の位置について配慮出来る仕組みを考えていく必要がある。
7. チェックリスト4ページの「モニタリングの留意点」に記載内容は、土砂流出が指数関数的に下がってくる時の植生回復状況や山腹崩壊状況の把握により移動可能土砂量の見直しを検討するということか。

【事務局】

さらに検討が必要ですが、今後のモニタリング検討の際に決めていきたいと考えています。モニタリングの留意点にある施設改良実施のタイミングの把握や、そのタイミングの閾値が大事だと記載していますが、閾値を検討する際は、その方法論から作っていかねばならないと考えています。その議論については、今後、厚真川を具体的な事例としてモニタリング等について開発局で具体化する予定です。

8. フローチャート、チェックリストに記載している内容は、是非実施して欲しいが現実的にかなり難しいことだと考える。中・長期的に考えると、降雨により土砂が再移動するので生息場が変化する可能性があり、費用や労力もかかると認識している。

【事務局】

生物種の調査は、衛星写真やドローンによる調査等の成果を保存していく等、災害発生直後に周辺自然環境の情報を把握しておいて、時間が経過した後に変化を把握する方法も検討したいと考えています。

9. フローチャート 14 以降では、長期間を要する実施内容なので重要である事が伝わるように表現を工夫すべき。また、フローチャート前段の「応急対策完了後」の記載と同様に「恒久対策完了後」の記載も必要。

10. 「モニタリングの留意点」に記載のある生物生息場（瀬・淵、カバー、氾濫域等）の類型化については、もっと議論しなければならないため、植生回復状況・山腹崩壊状況により移動可能土砂量をどのように評価するかという議論と一緒に検討する必要がある。

【事務局】

ご指摘いただいた内容については、限られた時間の中での議論でフローチャート、チェックリストへ反映することが難しいため、具体のフィールドで検討することを考えています。そのため本フローチャート、チェックリストへ最低限これだけは記載すべきという内容をご教示いただければと思います。

【事務局】

本日、頂戴した意見につきましては、フローチャート、チェックリストに反映した後に、山田委員長の確認をもって最終版とさせていただきます。

(了)